

麻 酔 科

【実習の到達目標】

麻酔実習（全員必須、下線は推奨項目）

- 1) 手術患者の全身状態の評価方法を知る。
 - (1) 術前検査値の評価ができるようになる。
 - (2) 合併基礎疾患の周術期コントロールの意義が説明できるようになる。
- 2) 症例に応じた適切な麻酔法を説明できる。
- 3) 麻酔方法と麻酔管理上必須のモニター、検査、対処法が説明できる。
- 4) 症例の概要を適切な説明で提示できる。
- 5) 気道確保（気管挿管）と人工呼吸、末梢静脈路確保が実際に行える。
- 6) 血液ガス分析、電解質、凝固検査などの検査を行い、その結果を解釈できる。

疼痛治療実習（全員必須）

- 1) 術後疼痛管理の実際に触れ、その意義が説明できる。
- 2) 神経ブロック等のペインクリニック治療について説明できる。

外科系集中治療室実習（全員必須）

- 1) SICUでの周術期の全身管理について説明できる。

関連病院での実習（院外実習開始後）

- 1) 一般病院での麻酔科関連業務に触れ、その概要を説明できる。

スケジュール

大枠は下記の通り。なお院外実習の有無と学生数により変更がありうる。

第1週

| | | | | |
|-----|---------------------|-------|----------|--------|
| 月 | オリエンテーション | 7時45分 | 麻酔管理室 | 集合 |
| 火～金 | 学生ごとに指定された研修を行う。 | | | |
| | 術前診察外来、ペインクリニック外来見学 | | | |
| | | 9時 | 麻酔科外来処置室 | 集合（白衣） |
| | SICU研修 | 8時 | SICU | 集合（術衣） |
| | 手術室研修 | 7時45分 | 手術部カンファ | 集合（術衣） |
| | 関連病院での実習（各自2回） | | 病院ごとに指定 | |

第2週

| | | | | |
|-----|---------------------------|-----|-------|----|
| 月～木 | 学生ごとに指定された研修を行う。内容は第1週と同じ | | | |
| 金 | 実習総括 | 10時 | 麻酔管理室 | 集合 |

（備考）4週間コースでは、前半2週間は2週間コースと同じ実習内容、後半2週間は大学病院実習もしくは学外実習（以下の総合病院のいずれか）を実習生が選択して行います。社会情勢に応じて、学外実習が中止となる場合がありますが、その際は大学病院での実習が中心となります。

【注意事項】

医師としてふさわしい身だしなみをする事。
無断での欠席、遅刻、早退は厳禁。

手術室内では清潔・不潔の区別に特に注意し、実習指導医の指示を守ること。
手術室内では不用意な言動を慎むなど、言動に注意すること。
ポートフォリオは毎日記載し、実習最終日にコピーを提出すること。
患者個人が特定できる医療情報は決して病院外に持ち出さないこと。

【実習の内容】

- 1) 手術室研修は以下の通り。
 - (ア) 当日朝のカンファレンスで症例プレゼンテーションを行う。
 - (イ) 麻酔管理の研修では、指導医の指導の下、許可された手技を行う。
 - (ウ) 担当症例についてレポートを作成し、指定日までに提出する。
- 2) 外来見学は、指導医の診療の見学を行う。
- 3) SICU 研修では、見学及び許可された手技を行う。
- 4) 関連病院の実習では、麻酔管理の見学と講義が予定されている。

【評価】

出席点 (40 点)

教員による個別評点 (40 点)

総括・レポートの評価点 (20 点)

【参考図書、文献】

- 1) 標準麻酔科学 第7版 医学書院

【担当教官】

| | |
|------------|------------|
| 堤 保夫 (研究科) | 中村隆治 (病院) |
| 佐伯 昇 (研究科) | 加藤貴大 (病院) |
| 大月幸子 (研究科) | 近藤隆志 (病院) |
| 檜崎壮志 (研究科) | 野田祐子 (病院) |
| | 豊田有加里 (病院) |

仁井内 浩 (病院・手術部)

三好寛二 (病院・手術部)

神谷諭史 (病院・手術部)

横見 央 (病院・手術部)

【予定派遣先病院】

呉医療センター・広島市立安佐市民病院・JA 広島総合病院・県立広島病院

【連絡先】

TEL : 082-257-5267 (医局秘書 寺田)・082-257-5533 (麻酔管理室 直通)

E-mail: masuika@hiroshima-u.ac.jp (当日の遅刻・欠席の連絡は電話で行うこと)